

基本方針4 子どもたちの豊かでたくましい人間性をはぐくみます

【基本的方向】

- ① 小・中・高一貫したキャリア教育を推進するとともに、地域と連携した体験活動や読書活動を充実し、粘り強くチャレンジする力をはぐくむ教育を充実します。
- ② 歴史や芸術・文化・学術等に関する教育を推進し、郷土への誇りや伝統・文化を尊重する心をはぐくみます。
- ③ 民主主義をはじめとした社会のしくみについての教育を推進し、社会の一員として参画し貢献する意識や公共の精神を醸成します。
- ④ 社会のルールを守り、違いを認め合い人を思いやる豊かな人間性をはぐくむ人権教育・道徳教育を推進します。
- ⑤ 子ども自身の問題解決能力をはぐくむとともに、関係機関との連携や支援チームの活用等により、いじめや不登校等の生徒指導上の課題解決に向けた対応を強化します。
- ⑥ 教員研修の実施など校内の指導体制を強化し、体罰等の防止に取り組みます。

【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
①	キャリア教育の推進 (児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育プログラムの推進) ＜参考資料 P193＞	小・中学校において、研修を通じて「大阪府キャリア教育プログラム」の周知・普及に努め、中学校区におけるキャリア教育全体指導計画の作成を促進した。
	キャリア教育の推進 (「志（こころざし）学」の実施) ＜参考資料 P194＞	府立高校においては、「志（こころざし）学」を実施するとともに、大阪府教育センター研究フォーラムにおいて、実践発表やパネルディスカッションを通じてその取組みの普及を図った。
	子どもの発達段階に応じた読書環境の充実 (大阪子ども読書活動推進ネットワークフォーラム)  ＜参考資料 P197＞ (公立図書館と学校との合同研修) ＜参考資料 P197＞	「大阪子ども読書活動推進ネットワークフォーラム」を開催し読書の重要性についての理解を促進するとともに、「公立図書館と学校との合同研修」を開催し、学校図書館の活性化や公立図書館における児童サービスの向上を促すことにより、子どもの発達段階に応じた読書環境の充実を図った。

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
②	近現代史をはじめとした歴史に関する教育の実施 <参考資料 P198>	大阪府教育課程協議会において、近現代史をはじめとした歴史に関する授業の内容を周知した。
	歴史・文化にふれる機会の拡大 （府立博物館等の活用） <参考資料 P198>	弥生文化博物館や近つ飛鳥博物館等において、府立小・中・高等学校への出前授業及び校外授業の受入れを行うとともに、小・中・高等学校の教員を対象とした研修や広報活動を実施した。
③	民主主義など社会の仕組みに関する教育の推進 <参考資料 P200>	小・中学校については、社会科の学習を進めるとともに、市町村教育委員会へのヒアリングにおいて、冊子「夢や志をはぐくむ教育」や実践事例集「民主主義など社会のしくみについての教育」について、その活用を促した。 府立高校については、大阪府教育課程協議会において、民主主義・社会の仕組みに関する授業実践の内容を周知した。また、「政治的教養を育む教育」については、各校で作成した指導計画に基づいて、公民科や「総合的な学習の時間」、特別活動などにおいて実施した。
④	道徳教育の推進 <参考資料 P201>	小・中学校については、「特別の教科 道徳」の円滑な実施に向けて、府内14校を推進校に指定し、指導方法や評価方法の研究を行うとともに、その成果を広く発信するために、大阪府道徳教育フォーラムを開催した。加えて、道徳教育推進教師対象の研修会を実施した。 府立高校については、各校が作成する道徳教育の全体計画に基づき、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進することを周知した。
	人権教育の推進 <参考資料 P203～P204>	小・中学校については、人権教育教材集・資料を活用した研修を実施するとともに、人権教育フォーラムを実施した。 府立高校については、共同研究校24校、共同研究員・研究協力員184人の体制により、研究交流会議やテーマ別研修会等を開催した。

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
⑤	いじめ解決に向けた総合的な取組みの推進 （いじめ対策支援事業） <参考資料 P208> （児童生徒支援総合対策事業） <参考資料 P208> 中学校における生徒指導体制の強化 （生徒指導機能充実緊急支援事業） <参考資料 P211> 小学校におけるチーム支援体制の充実 （小学校指導体制支援推進事業） <参考資料 P211>	いじめをはじめとする問題行動への対応として、市町村教育委員会に対して、府教育委員会作成の「5つのレベルに応じた問題行動への対応チャート」の積極的な活用を働きかけるとともに、162 中学校を対象として、生徒指導機能充実緊急支援事業を実施し生徒指導機能の強化を行った。併せて、生徒指導上の課題の大きい50 小学校を対象に、生徒指導アドバイザー（校長OB）やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を状況に応じて配置し、生徒指導上の課題に対するチーム支援体制の充実を図った。 また、子どもの命にかかわる緊急かつ重篤な事案や、学校や市町村教育委員会だけでは解決が困難な事例に対し、支援チームを派遣した。 11月に、いじめ防止フォーラムを開催し、いじめ解決に向けた実践報告や講演を行った。
⑥	児童・生徒等に対する学校相談体制の充実 （スクールカウンセラー配置事業） <参考資料 P209> 福祉や警察など関係機関の連携による取組みの推進 （スクールソーシャルワーカー配置事業） <参考資料 P209>	府内全中学校へスクールカウンセラーを配置し、児童・生徒の悩みや不安を受け止める確かな支援が行えるよう、「スクールカウンセラーと教員がともに取り組む問題行動解決力育成のためのブックレット」を活用するなど、教育相談体制の充実を図った。 市町村教育委員会（政令・中核市を除く）へスクールソーシャルワーカーを派遣し、児童生徒の環境改善に向けた福祉機関との連携の充実を推進した。
	体罰等に関する相談体制の整備 （生徒アンケートの実施） <参考資料 P213> （被害者救済システム運用事業） <参考資料 P213>	府立学校においてアンケートを2回実施し、体罰の早期発見に努めた。また、「被害者救済システム」を引き続き設置し、活用した。

【指標の点検結果】 ※全国学力・学習状況調査に係る指標については、当該年度の状況が次年度の結果に反映されるため、「計画策定時の現状値」及び「実績値」には次年度の結果を記載

指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績値 (計画策定時)	H28年度実績値	点検結果	
○指標 24 「将来の夢や目標を持っている」児童・生徒の割合	向上させる	小6 : 86.3% (全国 : 87.7%) 中3 : 71.1% (全国 : 73.5%)	小6 : 83.7% (全国 : 85.9%) 中3 : 68.3% (全国 : 70.5%) (H27年度実績 小6 : 83.1% (全国 : 85.3%) 中3 : 69.4% (全国 : 71.1%))	△	いずれも計画策定時の実績を下回った。
○指標 25 「ものごとを最後までやりとげたことがある」児童・生徒の割合	向上させる	小6 : 93.6% (全国 : 94.3%) 中3 : 92.0% (全国 : 93.7%)	小6 : 94.3% (全国 : 94.8%) 中3 : 93.5% (全国 : 94.7%) (H27年度実績 小6 : 93.9% (全国 : 94.4%) 中3 : 93.5% (全国 : 94.3%))	○	いずれも計画策定時の実績を上回った。
○指標 26 「読書が好き」な児童・生徒の割合	向上させる (全国水準をめざす)	小6 : 45.8% (全国 : 47.8%) 中3 : 38.0% (全国 : 46.2%)	小6 : 47.1% (全国 : 49.0%) 中3 : 39.3% (全国 : 46.1%) (H27年度実績 小6 : 46.8% (全国 : 49.3%) 中3 : 39.2% (全国 : 46.5%))	△	いずれも計画策定時の実績を上回っているが、全国平均を下回った。
○指標 27 「自分には良いところがある」と回答した児童・生徒の割合	向上させる (全国水準をめざす)	小6 : 73.0% (全国 : 75.7%) 中3 : 60.2% (全国 : 66.4%)	小6 : 74.9% (全国 : 77.9%) 中3 : 65.6% (全国 : 70.7%) (H27年度実績 小6 : 72.9% (全国 : 76.3%) 中3 : 64.9% (全国 : 69.3%))	○	いずれも計画策定時の実績を上回った。

【基本方針4】

指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績値 (計画策定時)	H28年度実績値	点検結果	
○指標 28 「人の気持ちがわかる人間 になりたい」と回答した 児童・生徒の割合	向上させる	小6：91.7% (全国：93.0%) 中3：92.5% (全国：94.2%)	— ※平成28年度全国学力・学習状 況調査児童生徒質問紙から当該 質問事項が削除	—	—
○指標 29 「学校のきまりを守って いる」児童・生徒の割合	向上させる	小6：85.3% (全国：90.6%) 中3：89.1% (全国：92.5%)	小6：89.1% (全国：92.6%) 中3：93.2% (全国：95.2%) 〔H27年度実績 小6：86.6% (全国：91.5%) 中3：92.8% (全国：94.7%)〕	○	いずれも計画策定時の実績 を上回った。
○指標 30 「近所の人に会ったときは、 あいさつをしている」児童・ 生徒の割合	90%以上をめざす	小6：87.5% (全国：91.8%) 中3：84.4% (全国：87.1%)	— ※平成26年度全国学力・学習状 況調査児童生徒質問紙から当該 質問事項が削除	—	—
○指標 31 「高校・高等部での学習を通 して『自分を大切にする』気 持ちが高まった」と回答した 府立学校生の割合	向上させる	57.0%	59.1% [H27年度実績 60.5%]	○	平成28年度実績は、計画策 定時の実績を 2.1 ポイント 上回った。
○指標 32 「高校・高等部での学習を通 して『人間関係』の大切さを 学んだ」と回答した府立学校 生の割合	向上させる	80.6%	82.6% [H27年度実績 82.4%]	○	平成28年度実績は、計画策 定時の実績を 2.0 ポイント 上回った。
○指標 33 「悩みや心配ごとがあると き、相談する相手がいない」 と回答した府立学校生の 割合	減少させる	9.2%	7.2% [H27年度実績 8.0%]	○	平成28年度実績は、計画策 定時の実績より 2.0 ポイン ト改善した。

指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績値 (計画策定時)	H28年度実績値	点検結果	
○指標 34 暴力行為の発生件数の 千人率	全国水準以下をめざす	小：2.4件（全国：1.2件） 中：29.9件（全国：11.3件）	H27年度実績 小：6.1件（全国：2.6件） 中：28.2件（全国：10.0件） 〔H26年度実績〕 小：4.3件（全国：1.7件） 中：32.4件（全国：10.7件） ※H28年度実績はH29年度10 月頃公表予定	△ (注)	平成27年度の実績は、中学校では改善が見られるものの小・中学校ともに全国平均との差が依然として大きい。
○指標 35 不登校児童・生徒数の 千人率	全国水準以下をめざす	小：3.3名（全国：3.2名） 中：31.1名（全国：27.0名）	H27年度実績 小：4.6名（全国：4.3名） 中：34.0名（全国：29.5名） 〔H26年度実績〕 小：4.3名（全国：4.0名） 中：33.7名（全国：28.9名） ※H28年度実績はH29年度10 月頃公表予定	△ (注)	平成27年度の実績は、小・中学校ともに全国平均との差は、同水準で推移しており改善に至っていない。
○指標 36 いじめの解消率	100%をめざす	小：89.6%（全国：90.9%） 中：86.2%（全国：86.7%）	H27年度実績 小：91.7%（全国：90.4%） 中：89.0%（全国：85.9%） 〔H26年度実績〕 小：82.6%（全国：89.9%） 中：82.1%（全国：86.4%） ※H28年度実績はH29年度10 月頃公表予定	○ (注)	平成27年度実績は、小・中学校ともに改善し、全国平均を上回った。

(注) 目標に対する平成27年度実績の進捗状況を記載。

【自己評価】

- ① 小・中・高一貫したキャリア教育を推進するとともに、地域と連携した体験活動や読書活動を充実し、粘り強くチャレンジする力をはぐくむ教育を充実します。
- ・粘り強くチャレンジする力の育成については、小中学校9カ年のキャリア教育全体計画の策定を促進するなど、キャリア教育の充実を図ってきた。その成果として、「ものごとを最後までやりとげたことがある」児童・生徒の割合は計画策定時の実績を上回った。一方、「将来の夢や目標を持っている」児童・生徒の割合は計画策定時の実績を下回っており、今後とも、発達段階に応じたキャリア教育を一層推進していく。
 - ・子どもの発達段階に応じた読書環境の充実を図るため、子どもの読書の重要性についての理解を促進するためのフォーラムの開催や、学校図書館の活性化や公立図書館における児童サービスの向上を促すことを目的とする「公立図書館と学校との合同研修」をはじめとした、各種研修を実施した。また、小・中学校における学校図書館の機能充実に向けては、担当指導主事会を通じて、市町村に対して優れた取組みを紹介するなどの支援を行った。「読書が好き」と回答した小6、中3の割合は、計画策定時に比べ増加しているものの、全国平均を依然下回っていることから、子どもが読みたいと思う本と出合う機会の拡大等を進めるとともに、市町村に対する読書活動推進の働きかけを進めていく。
- ② 歴史や芸術・文化・学術等に関する教育を推進し、郷土への誇りや伝統・文化を尊重する心をはぐくみます。
- ・近現代史をはじめとした歴史等に関する教育については、全校を対象とした教育課程協議会において近現代史をはじめとした授業内容の周知を行うなど、事業目標に沿って進捗している。弥生文化博物館・近つ飛鳥博物館を利用した小・中学生数は、平成28年度3万5百名となり、平成27年度から目標値3万名を維持した。子どもたちが歴史・文化等に触れる機会を拡大させるため、今後とも継続して出前授業による広報活動や、小・中学校の教員を対象とした研修の実施などを進めていく。
- ③ 民主主義をはじめとした社会のしくみについての教育を推進し、社会の一員として参画し貢献する意識や公共の精神を醸成します。
- ・政治的教養を育む教育については、各府立学校の指導計画に基づき、高校生向け副教材「私たちが拓く日本の未来」の中の「知識・理解に関する内容」について1単位時間以上、「実践的な学習活動に関する内容」について4単位時間以上、計5単位時間以上の指導を実施した。今後も、政治的教養を育む教育の充実に向け、教員研修を通じて好事例の共有を図っていく。
 - ・小・中学校等においては、社会科の学習や「夢や志をはぐくむ教育」の活用を通じて進めているところであり、引き続き取り組んでいく。
 - ・「志（こころざし）学」（高校）を実施するとともに、民主主義など社会の仕組みに関する授業の実践を府立高校へ周知した。今後とも、教育センター研究フォーラムにおける実践的な授業の報告の実施などを通じてその充実に努めていく。

- ④ 社会のルールを守り、違いを認め合い人を思いやる豊かな人間性をはぐくむ人権教育・道徳教育を推進します。
- ・小・中学校については、人権教育研修を実施するとともに、家庭・地域と連携した道徳教育をより一層推進してきた。これらの成果として、「自分には良いところがある」「学校のきまりを守っている」と回答した児童・生徒の割合が、計画策定時の実績を上回った。
 - ・府立高校においては、人権教育研修など各種会議を開催し、その成果を取りまとめるとともに、各学校で作成した道徳教育の全体計画に基づき道徳教育を推進した。これらの成果として、「高校・高等部での学習を通して『自分を大切にする』気持ちが高まった」、「高校・高等部での学習を通して『人間関係』の大切さを学んだ」と回答した府立学校生の割合はいずれも向上し、「悩みや心配ごとがあるとき、相談する相手がいない」と回答した府立学校生の割合も計画策定時の実績より、改善している。今後も教育活動全体を通じて一人ひとりの人権が大切にされる学校づくりに取り組んでいく。
- ⑤ 子ども自身の問題解決能力をはぐくむとともに、関係機関との連携や支援チームの活用等により、いじめや不登校等の生徒指導上の課題解決に向けた対応を強化します。
- ・中学校においては、平成 27 年度から生徒指導機能充実緊急支援事業を、小学校においては、平成 28 年度から小学校指導体制支援推進事業を実施し、生徒指導体制の強化を図った。また、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの研修を充実させることにより資質向上を図るとともに相談の拡充を行うなど、児童・生徒の相談体制を充実させた。その結果、中学校において、平成 27 年度の暴力行為の発生件数千人率が平成 26 年度と比べ 4.2 ポイント減少し改善がみられた。小学校においては目標に達しておらず、引き続き取組みを進めていく。また、いじめの解消率については、小・中学校ともに向上し全国平均を上回った。継続して、いじめへの積極的かつ正確な認知及び対応に向けた学校体制の充実を図る。不登校児童・生徒数の千人率は、全国と比較して依然として厳しい状況にあり、引き続き、専門家の配置等により不登校への早期対応の取組みを充実させていく。
- ⑥ 教員研修の実施など校内の指導体制を強化し、体罰等の防止に取り組めます。
- ・全ての府立高校において生徒アンケートを2回実施し、体罰の早期発見に努めるとともに、長期休業前の通知等を通じて、相談窓口の周知を図った。このような取組みにより、引き続き、体罰の発見に努めるとともに、体罰の防止についても、啓発に努めていく。

【評価審議会における審議結果】

○府の点検及び評価結果は概ね妥当である。

【基本的方向①について】

- ・小学校でのキャリア教育は、中学校、高校につながる大事な取り組みである。「各中学校区でのキャリア教育全体指導計画」の作成率が、計画策定時から飛躍的に伸びたことや、『『ものごとを最後までやりとげたことがある』児童・生徒の割合（指標25）」が向上していることは高く評価する。今後も、『『将来の夢や目標を持っている』児童・生徒の割合（指標24）」に関して、キャリア教育などを通じて、将来的に子どもたちが夢を持てるように取り組んでいてもらいたい。
- ・『『読書が好き』な児童・生徒の割合（指標26）」が向上したことは高く評価するが、その割合が50%を下回っている状況に懸念がある。学校司書等に対する研修を充実させることも必要。

【基本的方向③について】

- ・政治的教養を育む教育については、18歳から20歳までの投票率が20歳以上と比べ高くなっており、学校教育で扱うことの重要性を改めて感じた。引き続き、指導すべき。
- ・政治的教養を育む教育を表面的、一面的に捉えてしまうのではなく、自分の住んでいる地域や国をどうしていけばいいのかという教養について取り組むなど、好事例を発信しながら、特に具体的なアクティブ・ラーニングにつながるような模擬選挙やディベートなど社会に開かれた学習を進めるべき。

【基本的方向④について】

- ・『『自分には良いところがある』と回答した児童・生徒の割合（指標27）」について、小中高のそれぞれの段階に応じて、自己肯定感を高めるとともに、自分を好きで尊い存在だと思えるように取り組んでもらいたい。
- ・「高校・高等部での学習を通して『自分を大切にする』気持ちが高まったと回答した府立学校生の割合（指標31）」、「高校・高等部での学習を通して『人間関係』の大切さを学んだと回答した府立学校生の割合（指標32）」及び「悩みや心配ごとがあるとき、相談する相手がいないと回答した府立学校生の割合（指標33）」について、いずれも向上している状況は高く評価しており、引き続き成功事例を府立学校間で共有してもらいたい。

【基本的方向⑤について】

- ・「不登校児童・生徒数の千人率（指標 35）」については、小学校段階での不登校の増加が気になる。対応が後手になっている場合もあるかと思うので、小・中学校でも素早い対応を進めるべき。
- ・「暴力行為の発生件数の千人率（指標 34）」については、学校現場の多岐に渡る取組みにより改善傾向にあると思われる。それでも、暴力行為や不登校の件数が未だ多いように思われる。これら数値には表れないが、いろいろな問題を抱えている子どもは、もっといると考えられる。子どもを取り巻く環境は様々であり、教育上の諸問題は、低年齢化、多様化、複雑化している。教員は一生懸命取り組んでいるが、教員だけではどうしてもできないことがある。後期事業計画においては、地域を巻き込んだ取組みや、カウンセラー事業の質的、量的な充実を要望したい。
- ・小・中学校の不登校やいじめに関する引継ぎについては、中学校区を一つのエリアとして捉え、丁寧な引継ぎによって解消率が高まったという好事例を今後も広げていくべき。

○補足意見

【基本的方向②について】

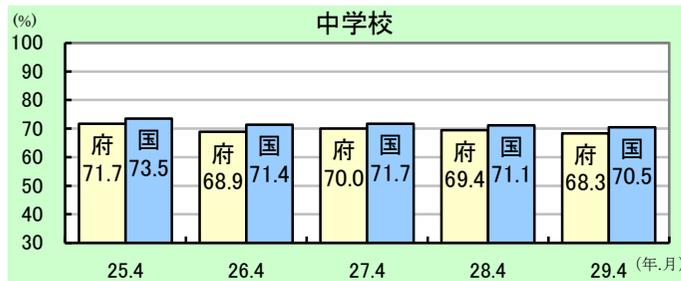
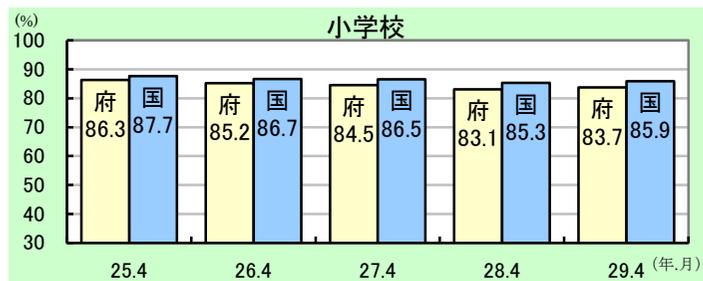
- ・「近現代史をはじめとした歴史に関する教育の実施（具体的取組 74）」について、特に大阪は近隣の国とのつながりが深く、領土問題等の扱いは難しい面もあるが、しっかりと我が国の主張を踏まえた上で、それぞれの方々の思いも聞くというようにして進めてもらいたい。

【基本的方向⑤について】

- ・いじめや暴力行為等に対するチーム支援については、後期事業計画の課題にもつながるが、教員だけが全ての問題を抱え込むのではなく、チーム学校として様々な人材が連携して、子どもの育ちを支援する大切さが見えてくる取組みである。この取組みをより拡大をして、各学校の課題に応じて支援をするよう要望する。
- ・「いじめの解消率（指標 36）」はあるが、不登校について、解消率というような指標を設定することで、どの程度効果があったのか効果検証することができ、どういう要因で再び登校できるようになるのかという大きなヒントになる。

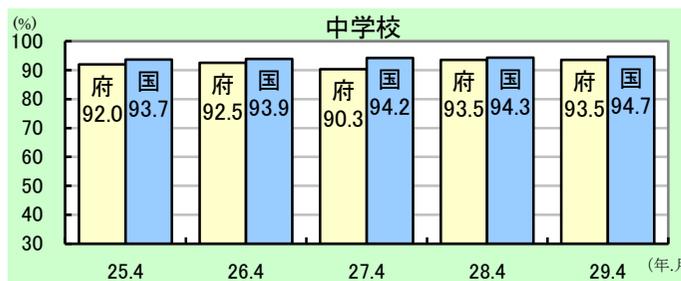
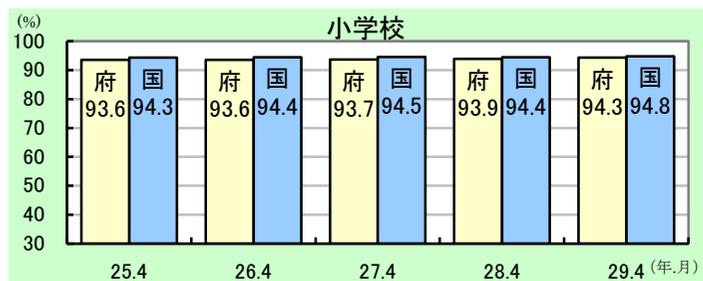
(参考)

◆指標 24 「将来の夢や目標を持っている」児童・生徒の割合



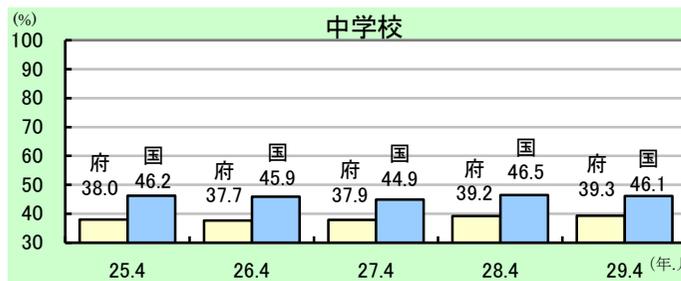
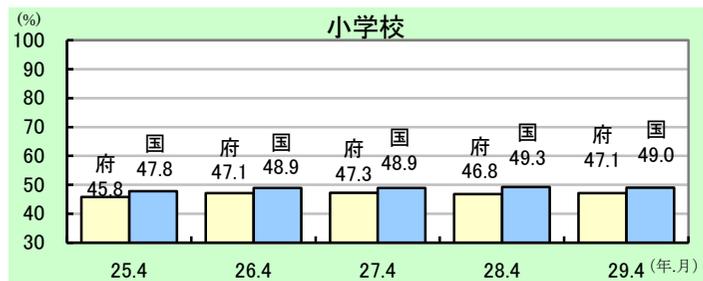
※文部科学省「全国学力・学習状況調査」
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標 25 「ものごとを最後までやりとげたことがある」児童・生徒の割合



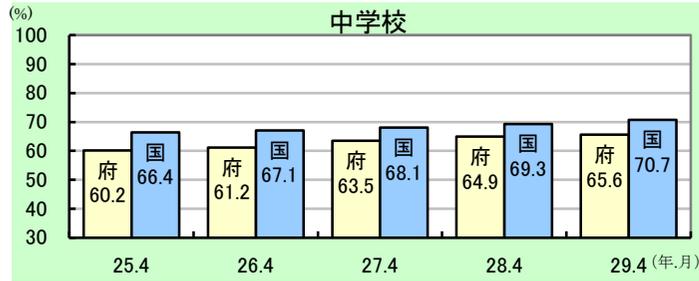
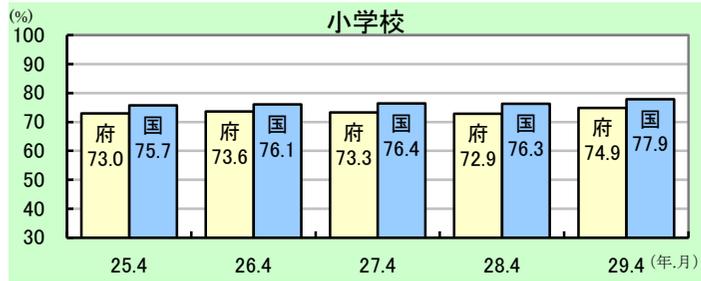
※文部科学省「全国学力・学習状況調査」
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標 26 「読書が好き」な児童・生徒の割合



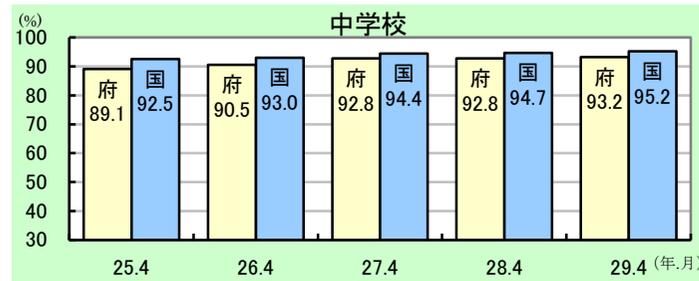
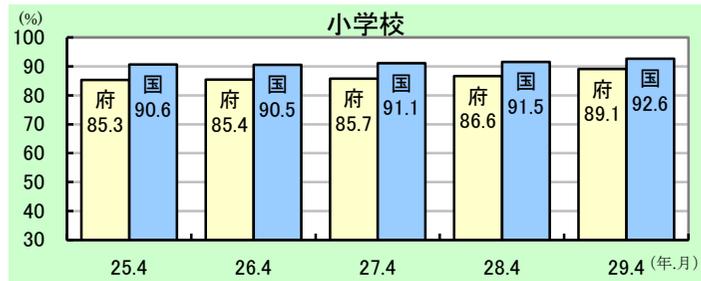
※文部科学省「全国学力・学習状況調査」
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標 27 「自分には良いところがある」と回答した児童・生徒の割合



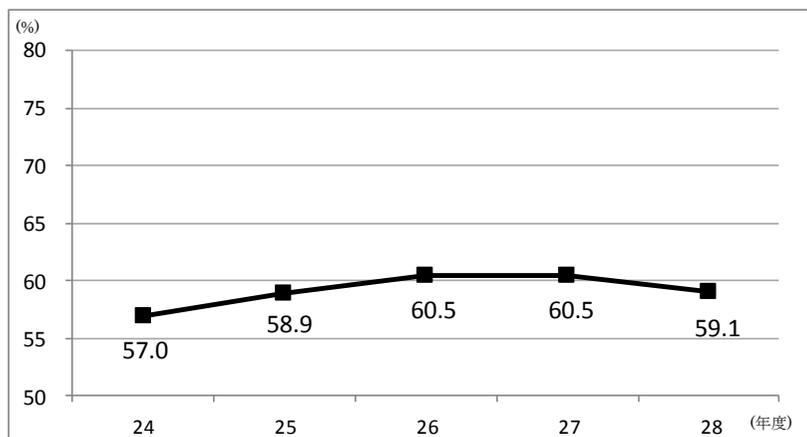
※文部科学省「全国学力・学習状況調査」
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標 29 「学校のきまりを守っている」児童・生徒の割合



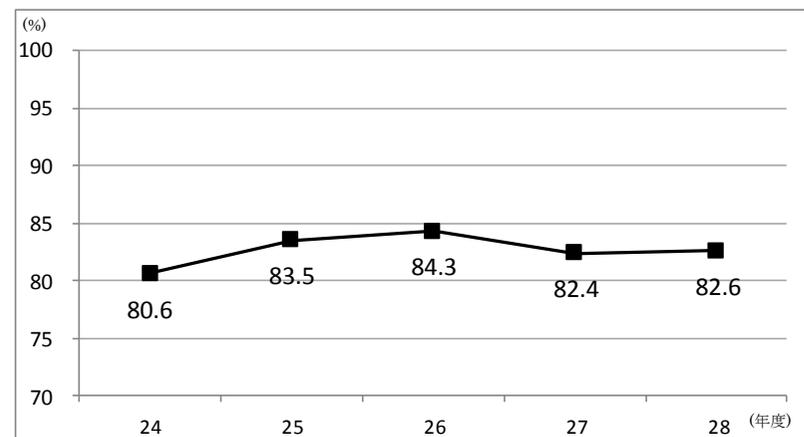
※文部科学省「全国学力・学習状況調査」
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標 31 「高校・高等部での学習を通して『自分を大切にする』気持ちが高まった」と回答した府立学校生の割合



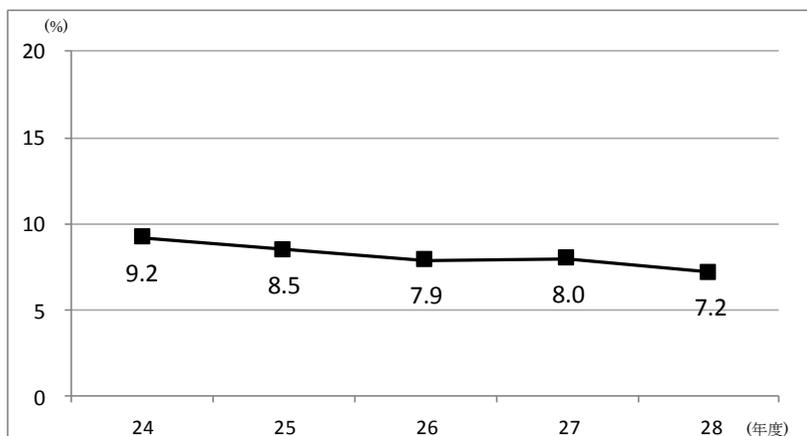
※府教育庁調べ

◆指標 32 「高校・高等部での学習を通して『人間関係』の大切さを学んだ」と回答した府立学校生の割合



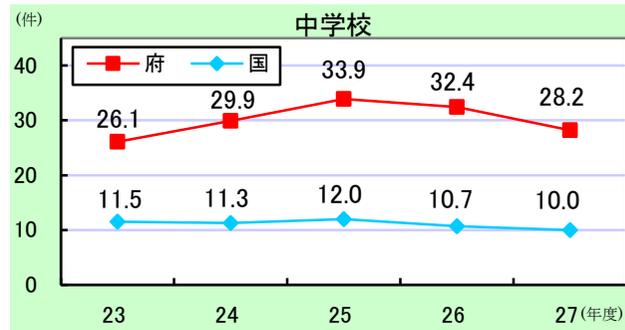
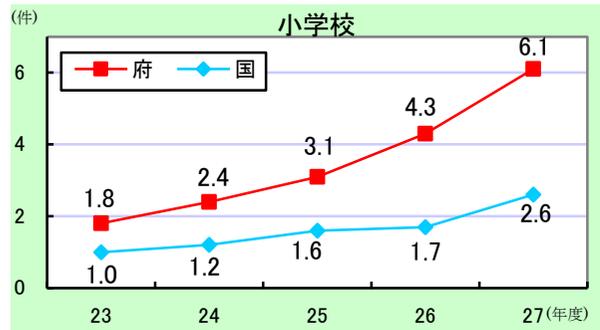
※府教育庁調べ

◆指標 33 「悩みや心配ごとがあるとき、相談する相手がない」と回答した府立学校生の割合



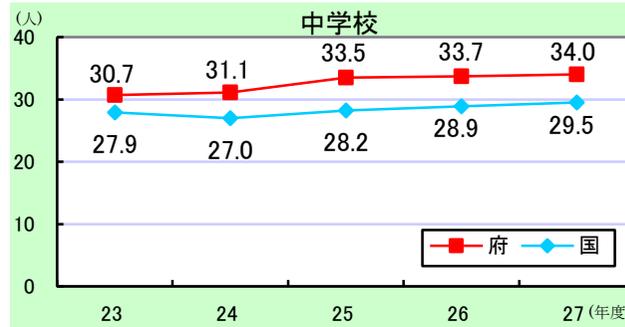
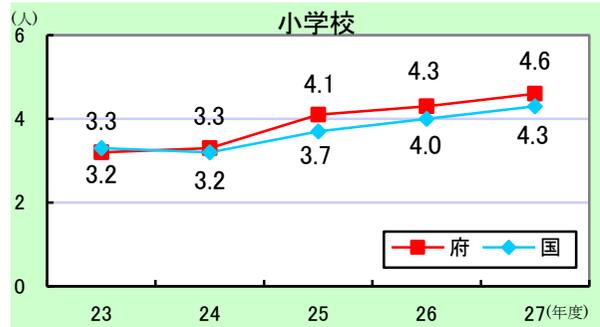
※府教育庁調べ

◆指標 34 暴力行為の発生件数の千人率



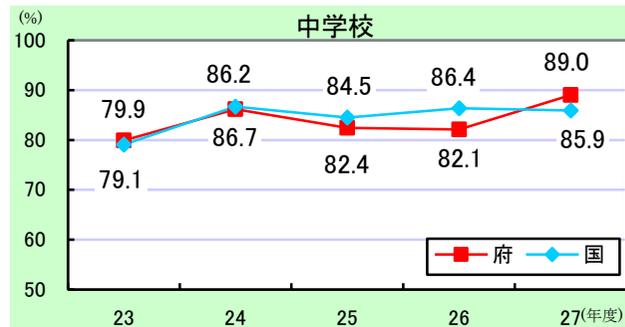
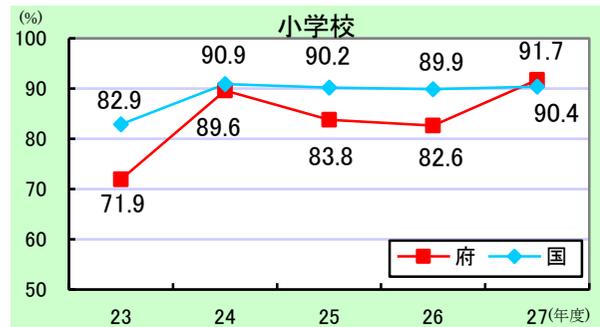
※文部科学省
「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

◆指標 35 不登校児童・生徒数の千人率



※文部科学省
「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

◆指標 36 いじめの解消率



※文部科学省
「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」